

東海カード会員だより

2020年4月20日発行

東海大学新聞掲載記事 (2020.3.1号)

【熊本】手作りの農産加工品を差し入れ

巨人・原監督らに後輩がエール

農学部学生と九州キャンパスの教職員らが2月4日、読売巨人軍がキャンプを行っているサンマリノスタジアム宮崎を訪問。原辰徳監督(体育学部客員教授)に、学生が栽培、製造加工した食品を手渡した。

特徴的な教育活動を採択する九州キャンパス長推進プロジェクトとして農学部が取り組んでいる「アグリ実学スキルアップ支援プログラム」の一環で昨年に続いて実施したもの。「原ジャイアンツ♡東海大学～原監督を始めとする読売巨人軍を東海大学九州キャンパス農学部のおいしさで応援し隊～」と題して、農学部の特徴を生かした食品を提供し、原監督と巨人を応援することが目的で、学生に企画・運営・技術研鑽などさまざまな経験を積んでもらうことを目指している。

学生と教職員ら28人は熊本校舎からバスで現地入りし、企画の実現に協力した東海大学学園校友会の後藤俊郎会長らと合流。グラウンドで原監督と対面した。

学生を代表して農学部2年の岩田朋佳さんと天野真沙さん、中村文佳さんが、「東海大学の先輩である原監督がプロの世界で活躍している姿は私たちの励みになっています。農学部産の農産物や加工品を食べて、リーグ連覇、日本一に向けたますますの活躍を期待しています」とあいさつ。バットに見立てた骨付きハムや、阿蘇実習フィールドで栽培した米や野菜などを紹介した。

学生たちは、「原監督はもちろん卒業生の菅野智之選手(体育学部卒)や投手キャプテンに就任した中川皓太選手(同)にも食べていただき、今季の活躍につなげてほしい」と期待を語った。

【スキー部男女】インカレで4種目を制覇

ルーキー北出選手ら活躍

札幌校舎で活動するスキー部が、2月12、13日と24日から27日の日程で、秋田県・田沢湖スキー場と鹿角スキー場を会場に開催された全日本学生選手権大会(インカレ)に出場。男子は総合2位、女子は総合3位となった。

男子ではノルディックのスペシャルジャンプで、山川太朗選手(国際文化学部3年)が同種目の連覇を達成。クロスカンントリー10キロフリーでは、北出竜之介選手(同1年)が初の学生日本一に輝いた。リレーでも3走を任せられ、チームをトップへと導き、優勝に貢献した。

北出選手は、「高校時代は成績を残せていなかった。日本一は本当にうれしい」と笑顔を見せる。今夏は短いスキー板にタイヤのついた「ローラースキー」で、長い距離を走りスタミナや筋力をつけてきた。「競技に集中できる環境はもちろん、チームの雰囲気もよい。まだまだ成長できると思うので、国際舞台でも活躍できるような選手になりたい」と目を輝かせた。

女子では、アルペンの回転で富井雪奈選手(同2年)が優勝。「2本目のコースセッティングが難しく、ほかの選手にミスが出ている中でも、減速せず無駄のない滑りができた」と勝因を語った。

(裏面へ続く)

インターネットホームページについて

URL : <http://www.kouyu.tokai.ac.jp/> (校友会)

<http://www.kouyu.tokai.ac.jp/kouenkai/> (後援会)

<http://www.kouyu.tokai.ac.jp/dousoukai/> (同窓会)

同窓会・校友会・後援会ではホームページを開設しております。会員の皆様からの情報をもとに内容を充実させていきたいと考えておりますので、ご意見・ご希望をお寄せ下さい。事務局までお気軽にお願いいたします。

学生が記念のロゴマークをデザイン

【教養学部】伊勢原市の市制施行 50 周年に向けて

教養学部芸術学科デザイン学課程の池村明生教授のゼミに所属する北村亜己さん(3年)が、神奈川県伊勢原市の市制施行 50 周年を記念するロゴマークをデザイン。2月4日に伊勢原市役所で高山松太郎市長を表敬訪問した。

同市が 2021 年 3 月に市制施行 50 周年を迎えるにあたって、包括協定を締結している東海大学が協力した。池村ゼミでは昨年 6 月に、50 周年のキャッチフレーズなどを決める市のワークショップに参加。市民投票の結果、同ゼミの安藤梨佐さん(同)や一色祐菜さん(同)らのグループが考案した「つながるつなげる 伊勢原のひとコマ」に決まり、同市の公式キャラクター「クルリン」と掛け合わせたロゴマークを北村さんが制作した。

ロゴは、50 周年の「0」を伊勢原市の特産品であるコマに見立て、中央に「クルリン」を配置しポップなデザインに。北村さんが「最もこだわった」と話すコマの色など、修正を重ねて完成した。

高山市長への表敬訪問では、色遣いのこだわりや伊勢原市の特色を踏まえた構成について説明。制作過程を振り返った北村さんは、「これまでは自分が好きなデザインや絵ばかり描いていたので、市の職員の方からの要望を形にしていけるのは難しかった。けれど、デザインを通じて地域にかかわる面白さを知ることができたので、今後もこういった機会があれば挑戦したい」と語った。

ロゴは今後、市内各所の施設やイベント会場ののぼり旗、公式グッズなどに使用される。

自己免疫疾患の治療応用に期待

【医学部】膜タンパク質の構造を分析

医学部医学科基礎医学系生体防御学の穂積勝人教授と平野健一研究員らが、自己免疫疾患の治療応用につながる研究に関する論文を発表。1月14日にオープンアクセス科学ジャーナル『eLIFE』に掲載された。

穂積教授らは、細胞間情報の伝達に重要な役割を持つ膜タンパク質「Notch(ノッチ)」と、これに結合してノッチを活性化させる膜タンパク質「NotchL(ノッチ・リガンド)」の役割や、これらの結合によって誘導され、細胞の発生や分化に寄与する「Notch シグナル」の仕組みを研究している。Notch(1 から 4 の 4 種)と NotchL(Dll1、Dll4、Jag1、Jag2 の 4 種)の異常は多くの細胞の分化や免疫応答の異常などを引き起こすため、これらの分子(Notch 系)を標的とする薬剤の開発が進められているが、Notch 系全体が抑制されるため副作用が強いという問題があった。

そこで穂積教授らは特定の分子のみを標的にできる薬剤の開発に向けて、個々の Notch と NotchL の組み合わせにおける結合様式の違いを詳細に分析。Dll1 と Dll4 の機能的な差異が Notch1 分子との結合様式の違いにあることを解明し、その一部は Dll1 と Dll4 の「MNNL」と呼ばれる領域の構造上の特性にあることを明らかにした。

穂積教授は、免疫機能を司る T 細胞が胸腺で分化する際に Dll4 が必須であることを 2008 年に初めて解明。以後、免疫機能と Notch 系の関係を研究し続けてきた。「この成果をもとに Dll4 に特異的に結合してその機能を抑制する小分子化合物が発見できれば、リウマチや炎症性腸疾患といった自己免疫疾患などへの治療応用が期待できます。本学の先進生命科学研究所と連携し、創薬につなげていきたい」と話している。

東海大学ネットをご活用ください

・Microsoft Office 365 システムによる生涯メールアドレスの利用

(tokai-ujp のドメイン)詳細は以下 URL をご覧ください。

<http://www.kouyu.tokai.ac.jp/dousoukai/service/net.html>

東海大学校友会（校友会・白鷗会・同窓会）事務局

学校法人東海大学理事長室学園校友課

〒151-8677 渋谷区富ヶ谷 2-28-4 TEL 03-3467-2211 (代表)

E-mail koyukai@tokai.ac.jp

東海大学事務部事務課（後援会担当）

〒259-1252 平塚市北金目 4-1-1 TEL 0463-58-1211 (代表)

E-Mail koyu@tsc.u-tokai.ac.jp